所管事務調査とは、各常任委員会が自主的にその委員会の担当している市の業務（所管事務）について行う調査です。今号では、３月で調査を終えた４つの常任委員会の所管事務調査について報告します。

生活環境常任委員会

地域公共交通について

健幸まちづくりは外出促進から

公共交通の利用環境を高めることは健幸まちづくりにも大きく寄与する取組みです。交通弱者の外出保障、交通不便地域の解消、持続可能な公共交通の実現などについて調査を行いました。

- バス事業者へのヒアリング…市内で路線バスを運行する京王バスへのヒアリングを行い、コロナ禍による利用者の減少や運転手不足など、事業者を取り巻く課題を認識。
- ＡＩを活用したデマンド型交通…ＡＩで配車ルートを決定するデマンド型乗合バスを導入している長野県茅野（ちの）市へ行政視察。多様化している市民ニーズへの対応や交通不便地域での活用などの利点を確認。
- 地域力の結晶…桜ヶ丘地域で移動支援を行っている「桜ヶ丘の移動を考える会」との意見交換会を実施。利用者からは、送迎があるから家を出られると好評の声が寄せられている。
- 官民連携と自動運転…愛知県豊明（とよあけ）市では民間企業と行政が協力したビジネスモデルによる高齢者の外出促進の手法を、岐阜県岐阜市ではレベル４の自動運転をめざして運行している自動運転バスの運行体制やインフラ整備の状況を視察。

持続可能な公共交通の実現へ

1.ミニバス路線の継続を確保することが重要課題。事業者との話し合いの継続、南北線・東西線との調整等、継続維持のため取組みを強めていただきたい。

2.三多摩地域の自治体と協力し、国や東京都に対して財政負担等の支援を要求し、運転手確保に関しては画期的な待遇改善が図れるよう求めていただきたい。

3.自動運転は進化しているが、すぐに運転手不足を解消する段階ではない。国や東京都の実証実験への協力を積極的に行い、多摩ニュータウン再生の一つの手段として考えていきたい。

▲豊明市役所での視察の様子

子ども教育常任委員会

子ども・若者への支援について

子ども若者支援の先進的な取組みを視察

- 令和５年10月　京都市立洛風（らくふう）中学校（学びの多様化学校）、豊橋市こども若者総合相談支援センター「ココエール」
- 令和６年10月　名古屋市立山吹（やまぶき）小学校（自立できる生徒の育成）、奈良市若者サポートセンター「Restartなら（リスなら）」

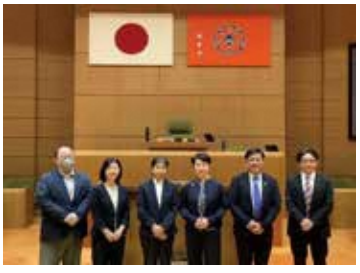
子ども若者への支援の要望・提案を市側に提出

悩んでいる子ども・青年世代の具体的なニーズにあわせた、切れ目のない支援ができるように、庁外も含めた広範な支援ネットワーク・支援体制を構築すること。それには所管である子ども青少年部だけで対応するのは困難なため、福祉、就労支援分野なども含めて、市全体として進めるために、以下３点を要望しました。

1.ひきこもりなどで支援が必要だが、行政との繋がりのない方、特に高校進学時や就職時などの学校を離れた時点の若者に対して、積極的に支援に結び付けることが現在は不十分である。このような方たちに対するアプローチや、社会に繋がるまでの切れ目のない伴走型の支援について、具体的に考える必要がある。政策的な会議で現状を全庁で共有し、福祉や就労を含め、社会に出ていくために必要なもの、様々な人が繋がる仕組みを検討し、支援体制を構築すること。

2.支援全体をコントロールできる仕組みを検討し、安定した社会生活を送れるまでの一定期間、定期的な状況把握をすること。

3.ひきこもりなどの当事者を社会に繋げていくためには、一人一人の状況にあった様々な居場所が必要となる。当事者のニーズを捉えた居場所の開拓や、本人の適性に合った安定した就労等に向け、協力していただけるトレーニング機関や企業などの開拓にも力を入れること。


▲奈良市議会議場での集合写真